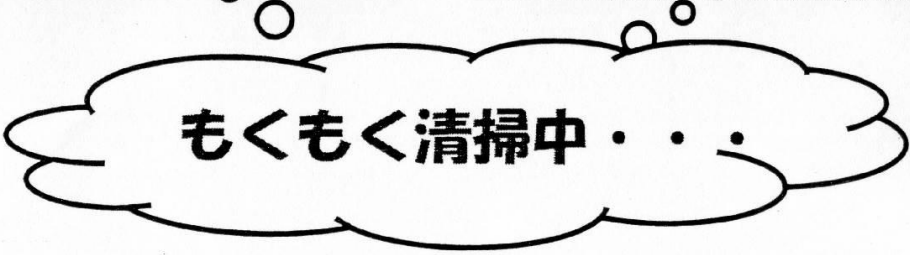
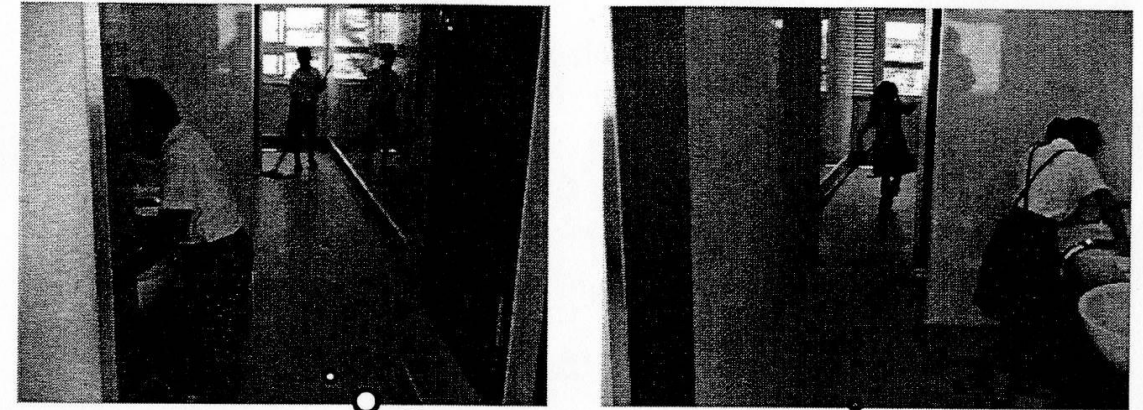


# 心育て通信

～ 夢にむかって自分らしく輝く子～

No.4

七月になり、一学期も残り少なくなってきました。長い夏休みに入る前に、いま一度いいいな掃除を子どもたちと共に心掛けていきたいと考えています。



## 鉄筆

「プロフェッショナルな仕事の流れ」というNHK総合テレビの番組がある。人間の「生き方・在り方」を考える上で参考になる。教育的な価値も高い▼「『清掃のプロ』スペシャル」をテーマにした放送では、ビル清掃の新津登子さんと高所窓ガラス清掃の羽生田信之さんが登場。2人に共通していたのは、真剣さと誇りをもって仕事に打ち込む姿。まさに「プロとしての仕事の流儀」を教えてもらった▼中でも新津さんは、中国残留日本人孤児だった父親と中国人の母親との間に生まれ、幼い頃から壮絶ないじめを受けて育った。17歳のときに一家で日本に来たが、差別に苦しめ、就くことができた仕事は清掃業だけという厳しい状況下でひたすら清掃に打ち込んだ。ついに「清掃の技能選手権」で日本一を勝ち取る▼「では、

2年連続で「世界一清潔な空港」に選ばれた羽田空港で、清掃の先頭に立つ。80種類以上の洗剤を駆使し、あらゆる困難な汚れを素早く落とす。かすかに舞うホコリも絶対にくるがせにしない。アレルギーを持つ人への影響を考えてのことだ。だから、日常的に「きれいですね」と声をかけられる▼「清掃」といえば、学校のトイレ清掃を実践している日本を美しくする会の相談役・鍵山秀三郎氏(株式会社ローハット創業者)を思い出す。数ある名言の1つに「心を磨くには、目の前に見える物を磨き、きれいにすること。特に、人のいやがるトイレをきれいにすると、心も美しくなる」がある。「心を込めて掃除する」という新津さんの固い信念と相通じるところがある。

これは、新聞のコラムです。世界の中で、学校教育に掃除をとり入れている国は、約三割だそうです。日本では、掃除を「心の整え」という意味としても捉えていました。身の周りを美しくすることによって、見えない心を磨き上げる、という面を大切にしてきたのです。大泉学園では、教師と児童が共に、お世話になっている学校を美しくする、という思いで掃除をしています。汚れを取ったり、乱れを直したりすることは、気持ちが良いものです。また、「笑って見れば花も微笑む」という言葉があります。美しくした物や場所を使って、にっこり笑いながら子どもたちが活動することは、物や場所にとっても喜びとなることでしょう。

大泉学園では、とりわけ「靴そろえ」を大切にしています。靴をそろえると、その場所が美しくなります。美しい所に荒みは生まれません。「靴がそろえば、心がそろう」というわけです。また、靴をそろえることは、物事をやりっぱなしにせず、一つ一つを完結させるという意味があります。剣道では、打ち込んでからの剣に心をこめる「残心(ざんしん)・心を残す」という言葉がありますが、「靴そろえ」は、まさに靴を脱いだときの「残心」を大切にすることに他なりません。家の玄関やトイレのスリッパ等、靴をそろえる機会は多くあります。夏休み中も、ぜひ「靴そろえ」のここを忘れないでいてほしいと願っています。

( 心育て部会 )